

〈特別寄稿・企画研修②〉

来年の干支 うさぎの木目込み人形をつくろう

今年度第二回企画研修会が12月4日と11日(日曜)の二日間、13時30分から市民会館いわつきにおいて開催された。

木目込み人形とは、木製の人形の一種で、桐塑または木で作られた人形に筋彫りを入れ、筋彫りに目打ちなどで布の端を押し込んで衣装を着ているように仕立てた人形のことである。この筋彫りに布の端を押し込む動作を「木目込む(決め込む)」ということから、木目込み人形と呼ばれるようになった。雛人形や七福神の他、干支飾りや手鞠などもある。

今回は、来年の干支である兎を作ることにした。参加者は岩槻班16名、他班7名の計23名となった。コロナ禍がすっかりあけた訳

ではなかったが、感染対策をしっかりと行った上での実施となった。

兎の人形は、希望卵と跳卵の二種類で事前に教材を選んだ。教材が入った箱のふ



ヘラで布を木目込む

たを開けると、桐塑とちりめんの布、目やひげ、ひも等の小物が入っており、わくわく感が増した。

早速、森田人形店の森田由美子氏が作り方を説明してくださり、「木目込み」開始となった。

跳卵は、まず、白のちりめんを顔や耳、手足に木目込んだ。段々慣れてきてうまくできたような気分になった。内耳にピンク色のちりめん布を木目込むと可愛らしく見えた。鮮やかな花柄模様の赤のちりめん布を木目込んだ。赤色のちりめん布を木目込む所は、意外と手間取った。次に、目・口をつけた。最後に鈴を付けた赤いリボンを糊で接着し完成した。前から見ても後ろからみてもかわいい。二日目は森田氏不在だったが、みんなで協力し合いながら作成した。皆さん何とか完成し、兎が勢ぞろいした記念写真には満足感が



制作に集中する参加者

感じられた。皆さんに教えていただきながら作ったことは、やはり楽しい思い出になった。売っている製品と比べれば見劣りはするが、自分で作った世界に一つだけのこの卯の木目込み人形に愛着を感じる。来年の正月は自作の兎を玄関に飾って、新年を迎えたいと思う。岩槻班退職校長会のみなさんと一緒に作れたことに感謝の思いでいっぱいである。改めて森田人形店の森田氏に感謝を申し上げます。

(担当幹事 林 春枝)



作品を囲んで記念撮影

